



2020-04
NC-Z212 500639
13-0006
初版
1刷発行

廃形をしない エム・システム技研は どこで努力をしているのか！

部品廃番・大災害による部品の調達困難などを 乗り越えてきました！



技術の進歩と共に、電子部品はどんどん限りなく小さなものになり、古い部品は廃番になっていきます。
エム・システム技研では最新の部品を使って設計変更を繰り返し、同じ形式、同じ性能、同じ外形の製品を作り続けています。
この動画でその取組みをご紹介します。
ぜひご覧ください。

設計変更を支える自社評価試験施設
京都テクノセンター電波暗室



百聞は一見に
しかずやで！
見てや！



 **チャンネル登録をお願いします**

エム・システム技研のホームページからでもご覧いただけます。
<https://www.m-system.co.jp/video/index.html>

廃形 (はいがた) しません!! 電子パーツが廃止になった場合でも設計変更で対応いたします。
ただし、代替の電子パーツを入手できない、あるいはリピートオーダーが見込めない場合などは廃形にすることがあります。

株式会社 エム・システム技研
Visit our website! www.m-system.co.jp

いつまでも作りつづける 生産体制

電子機器を製造しつづける上で最大の困難は、その製品に組込む電子部品が供給停止になることです。電子部品が供給停止になった場合でも『廃形しません』をポリシーに掲げているエム・システム技研は、代替部品での対応や、同等以上の機能を有した回路となるよう設計変更し対応しています。

電子部品の供給停止と時代背景

電子部品の入手が困難になる原因は、部品メーカーの一時的な事情と思いがちですが、そうでもなさそうです。国内半導体メーカーの事業所統廃合により部品が廃形になる以外にも、東日本大震災により部品工場が被害を受けたり、あるいはタイで発生した洪水で工場が水没した影響で部品入手が困難になるケースもありました。

電子部品の供給停止が避けられないのなら 設計スピードでカバーします。

電子部品の供給が停止となる場合は、部品メーカーよりあらかじめ通知を受けます。通知を受けた設計部門はすぐさま設計変更に必要な期間を割り出します。生産管理部門は設計期間内の出荷台数を割り出し、部品メーカーに必要な数量を発注します。

回路変更が伴う場合には、評価試験など多項目におよびやり直しが発生しますが、エム・システム技研には公的機関に認定・登録された電波暗室やシールドルームなど必要な試験設備を自社で保有していますので、いつでも効率よく変更作業が行えます。

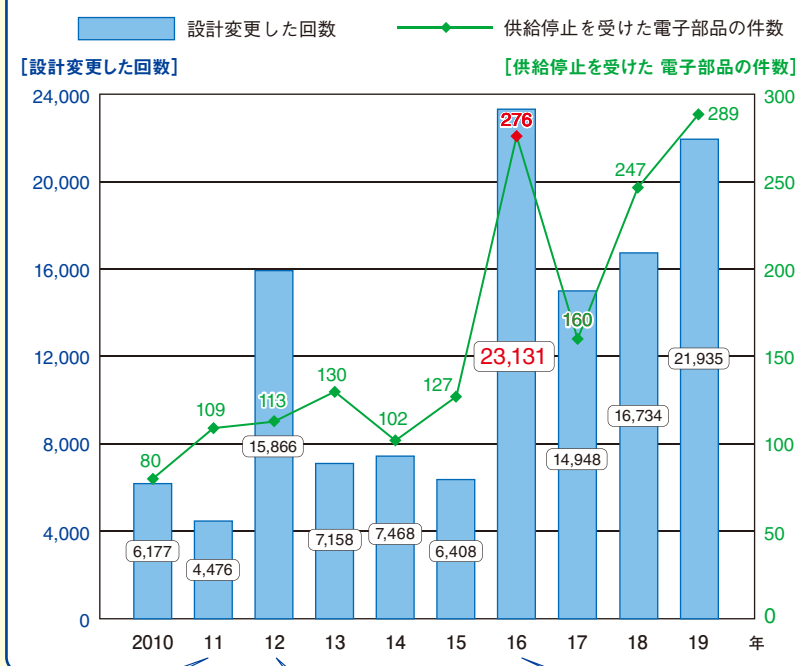


38年前のエム・ユニット



現在のエム・ユニット

部品の供給停止により設計変更した回数



東日本大震災による影響でコンデンサ部品が入手困難となりメーカー変更しました。
設計変更：259回

●東日本大震災による影響でコンデンサ部品が入手困難となりメーカー変更しました。
設計変更：6,214回
●タイ洪水による影響でトランジスタ部品が生産中止となりメーカー変更しました。
設計変更：281回

●トランス部品メーカーの事業廃止によりメーカー変更しました。
設計変更：5,588回
●国内半導体メーカーの事業所統廃合により部品が廃形となったため、メーカー変更しました。
設計変更：4,707回

エム・システム技研製品のご注文や価格につきましては、下記までご連絡ください。

代理店

MSYSTEM
株式会社 エム・システム技研

ホットライン
☎ 0120-18-6321
カスタマセンター
TEL 06-6659-8200 FAX 06-6659-8510

●ホームページ：www.m-system.co.jp ●Eメール：hotline@m-system.co.jp

本社・カスタマセンター 〒557-0063 大阪市西成区南津守5丁目2番55号
TEL (06) 6659-8200(代) FAX (06) 6659-8510
関東支店 〒108-0014 東京都港区芝4丁目2番3号(NMF芝ビル1F)
TEL (03) 3456-6400(代) FAX (03) 3456-6401
中部支店 〒460-0003 名古屋市中区錦1丁目7番34号(ステージ錦3F)
TEL (052) 202-1650(代) FAX (052) 202-1651
関西支店 〒541-0044 大阪市中央区伏見町4丁目4番9号(淀屋橋東洋ビル8F)
TEL (06) 6223-0040(代) FAX (06) 6223-0041